



かけはし

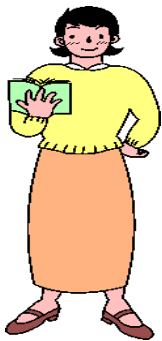
五條小学校通信

2013年6月26日

第4号

ナイル川を渡るアリ

月曜日は、8時30分から全校朝会があります。



「はじめに、先生方と朝のあいさつをします。『おはようございます』」
教頭先生の第一声で始まります。その言葉の後から返ってくる子どもたちの声の力や響きで1週間のスタートを切るみんなのやる気を観察します。最近、玉の汗をかいて登校してくる子が多く、それだけでエネルギーを使っているようです。どことなく元気を吸い取られている感じがしないでもありません。土日の疲れを引きずっているようなところも見られます。

月曜日は、子どもたちも私たちも生活のリズムを切り替えるのに、少々時間が必要な曜日でもあります。朝会は、全校児童全員が集まり、やる気と元気を充電する大切な行事の1つです。

挨拶の後、校長先生の講話に続き、生活部の先生からくらしの諸注意やめあてなどについての話があります。それから、各委員会やクラブのメンバーによる伝達やパフォーマンスなどが加わることもあります。

そして、昨年度から生活部の先生以外の教員も「一人一講話」ということで、練りに練った話を披露することになりました。先週は、5年担任の森本由利子先生がその役割を担当しました。話の内容を簡単に紙上再生してみましょう。

「みなさん、世界でいちばん長い川は何という川か知っていますか。ナイル川と言います。アフリカのエジプトという国を流れる大きな川です。どれほど大きいかと言いますと、何と向こう岸が見えません。まるで、海かと間違えそうなくらい大きな川です。エジプトにはそんな大きな川を渡るアリがいるそうです。アリは、道ばたの小さな溝でさえも渡るのは必死なのに、どのようにして渡るのでしょうか。(子どもたちは頭をひねって考えましたが、なかなか思いつきません。)

それでは説明しましょう。小さなアリでも、3000匹も集まればサッカーボールぐらいの大きさになります。そうして、川をポッカーリポッカーリ浮かんで流れながら、時間をかけて渡るのです。でも、水面より上に出たアリは大丈夫ですが、水の中になったアリはどうでしょう。

(死んでしまうとの返答)

そうですね。このままだと下のアリは息ができずに死んでしまいます。でも、水面を転がりながら浮かんでいるので、下のアリはぐつとがまんしながら上のアリを支えます。そのおかげで上のアリは呼吸ができます。そして、今度は、上にいたアリが下に回って、下から上になったアリを支えます。これをくり返しくり返し、そして、川を渡りきるのだそうです。

このように、1人の力は小さくても、合わせるとすごいことができます。こんな五條小学校にしませんか。きっとすてきな学校になります。」

森本先生は、みんなに分かりやすいように自作の小道具や模型を使って熱弁をふるいました。

私たちのくらしは、いろいろな人によって支えられています。先生は、ナイル川を渡るアリを例にあげて、子どもたちに語りかけました。

